

①マルクスの思想ないしはマルクス主義的な学術研究が現在または過去の社会・文化についてどのようなことを論じているか。下記のトピックからひとつを選び、文献を用いて調べる。抽象論にとどまらず、具体的なレベルで掘り下げること。

(a)ジェンダー、家族 (b)メディア、ポップカルチャー (c)宗教 (d)政治、国家 (e)市民

②社会の仕組みや構造が「再生産」される「仕組み」が、現在の日本でどのように「語られるか」を調べる。研究に依拠しても、一般の人々の認識に依拠してもよい。文献のみならず、ウェブサイトの利用も可。ただし、「仕組み」が語られた資料を得ること。

③社会・文化現象としてのジェンダーの事例を具体的なレベルで文献にもとづいて調べる。時代・地域は問わないが、一定程度客観的な資料の存在する事例を扱うこと。

④権力関係、支配・被支配関係が社会・文化的な文脈でどのように出現するかを、文献を用いて具体的に調べる。

※文献は明石書店、岩波書店、河出書房（河出書房新社）、平凡社から刊行されたもの

(1)生物学的要素が関わるような人種差別の具体例とはどのようなものか、時代・地域を限定して調べる。

(2)生物学的特徴が直接関連しないが、国民、民族、階級、移民、ジェンダー、文化が関連する差別の具体例を時代・地域を限定して調べる。